

教員活動状況報告書

提出日：令和 4 年 1 月 25 日

所 属：生命・環境科学部 臨床検査技術学科

氏 名： 小山 雄一 職位：助教

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
組織学・同実習	臨床検査技術学科	必修	1 年次	103
病理学 I	臨床検査技術学科	必修	2 年次	93
病理学 II	臨床検査技術学科	必修	2 年次	93
病理学実習	臨床検査技術学科	必修	2 年次	93
病理検査学実習	臨床検査技術学科	必修	3 年次	90
総合臨床検査学演習	臨床検査技術学科	選択	4 年次	99

病理学，病理検査学を主に担当している。病理学は解剖学，生理学，生化学などの基礎科目を土台とした，医療従事者養成において最も重要な科目のひとつであると考えている。病理検査学についても，病理診断という医療現場において決定的な役割を担う診療行為を支える重要な分野であり，臨床検査技師教育における重要性が極めて高い。これらの担当科目について，学生が興味を持って主体的に学修できるように導くことが教員としての責務の一つであると考えている。

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

教育の信念

学生にとって分かりやすい教育，これを目指すことを信念としている。臨床検査技師の教育課程においては修得すべき事柄が多く存在しており，その内容もしばしば複雑で難解である。限られた期間に多くの科目を修得し，国家試験合格という一つの目標に向かう学生の歩みを円滑にするために，教育者として自身を研鑽し，教育活動に還元していきたいと考えている。

育てたい学生像

「専門的スキル」と「非専門的スキル」の両方を兼ね備えた学生を育成していきたいと考えている。臨床検査技術学科では，大部分の学生が卒業後に医療現場に就職する。医療従事者として自身の専門的知識や技術を磨いて活躍することが重要なことであるが，それ以上に周囲と協調し，適切なコミュニケーションを図ることが円滑な診療業務を行っていくうえでは必須である。そのため，専門的な事柄に留まらず，学生には医療人として必要な人間性

(協調性や責任感、向学心など)を身に付けてもらいたいと考えている。

3. 教育の方法 (理念を実現するための考え方, 方法)

難しそうな内容であっても,なるべくシンプルに,学生がイメージしやすいように伝えるということが重要であると考えている。そのために,講義資料作成の際には注意を払っている。具体的には,指定教科書の内容,国家試験の出題範囲を意識しながら,どのように提示すれば学生が短時間で理解できるか,分かりやすいかという点を模索し,直観的に理解できるように講義資料に図や表を多く取り入れている。また講義途中に,小括として複数の簡単な確認問題をはさみ,学生が講義のポイントをおさえ,同時に知識のアウトプットができるようにしている。

アクティブラーニングについての取組

グループに分かれて行う実習では,病理組織標本の染色や観察など,学生が主体的に取り組めるようにしている。講義で学んだ事柄を実習では自身で実践し,予測とは違った結果になった場合には原因を考察してもらっている。

ICTの教育への活用

オンライン教育の一貫として講義動画の配信を行い,実習の顕微鏡観察の際には学生が自身の端末で組織標本像を撮影できるようにしている。小テストや定期テストにおいても学内外のシステムを活用した方法を実践し,効果の高い教育方法を模索している。

4. 教育方法の改善の取組 (授業改善の活動)

① 教育(授業,実習)の創意工夫(A)

② 学生の理解度の把握(B)

③ 学生の自学自習を促すための工夫(B)

④ 学生とのコミュニケーション(質問への対応等)(B)

⑤ 双方向授業への工夫(B)

担当科目において,授業を分かりやすくする工夫を実施しているものの,オンライン講義が多かったこともあり,自身が行った講義に対する学生の反応をリアルタイムで感じ取ることが困難であった。対面で講義に参加していた学生に講義の感想を直接尋ねて参考にするということも試みたが,理解度の把握という点では改善の余地があると感じている。

⑥ 国家試験対策としてどのような取組をしましたか。(V 学科, M 学科の教員の方のみ記載してください。)

過去10年分程度の国家試験の出題傾向を参照し,重要点をまとめた資料を作成して講義を行った。また,模擬試験の結果から学生が間違いやすいポイントを把握し,該当箇所については重点的に説明を行った。学生が繰り返し学習できるように,講義の配布資料,講義の録画ファイルについては学内システムを活用して掲示した。

5. 学生授業評価

<p>① <u>授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。</u></p> <p>授業評価において学生から指摘された点（授業のペースが速い，出席パスワードの提示時間が短い等）については，学生に合わせて調整するように心掛けた。</p> <p>② <u>①の結果はどうでしたか。</u></p> <p>同様の指摘を再度学生から受けることがなくなった。</p> <p>③ <u>②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。</u></p> <p>自分自身では気付くことが難しい点について，授業評価を通じて知ることができるため，今後も評価の内容を参考に教育活動を行っていきたいと考えている。</p>
<p>6. 学生の学修成果</p> <p>① <u>学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。</u></p> <p>オンライン講義，試験は教員と学生の双方にとって有益な面があると考え。一方で，これらを導入したことにより，学生が自身を律して講義に集中することや緊張感のある状況下で試験に向き合うということが不得手になってきていると感じる。したがって，オンラインを活用した教育の長所と短所を見極め，従来型（対面）の講義とのバランスを保つことが学力（成績）向上につながるのではないかと考える。</p> <p>② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価</p> <p>いくつかの学生から肯定的な意見（資料が分かりやすいなど）をもらった。</p>
<p>7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）</p> <p>FD 講演会『2021 年度後期授業実施に向けて』や「教員相互の授業参観」などの FD 研修に参加した。</p>
<p>8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）</p> <p>学生の理解度の把握に努め，効果の高い教育活動を実施していきたい。教育手法に関して，自身で創意工夫を施すと共に，学内外における他の教育者の手法を参考にし，教育の質を高められるように努力していきたい。</p>
<p>9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ</p> <p>シラバス，授業評価データ</p>

*A4 4枚程度（A4 1枚（目安 1行 40文字×36行 1440文字）

●FD 研修事後課題（ピアレビューによるブラッシュアップ）の実施

有・無

該当を○で囲む

●下線部以外は今回新規追加した事項を示す。